

授業科目	*基礎看護学実習Ⅱ				単位	2		
履修	必修	関連資格	高一種免(看護) 養教一種免		ナンバリング	NU11212J		
開講年次	2	開講時期	前期	該当DP	DP1-2 DP2-1 DP4-1 DP4-2 DP5-1 DP5-2			
担当教員	梶原 江美、隅田 由加里、金山 正子、長崎 恵美子、中島 紀江							
授業概要	<p>【実務家教員担当科目】</p> <p>基礎看護学実習2では、以下の目的を達成するために、原則、臨地での実習を行う。 さまざまな健康レベルにある成人期または老年期の対象者を生活者としてとらえ、既習の知識・技術を活用しながら、科学的根拠に基づく看護を実践する基礎的能力を習得する。</p> <p>看護過程を通して対象者の生活上のニーズを見出すとともに、生活上のニーズを充足するための、原理・原則に基づく看護技術の実践を目指す。また、対象者との関わりや看護実践を通して、看護者としての基本的態度・姿勢を身につける。</p> <p>実務家教員として医療現場で各健康段階に応じた看護実践の経験を踏まえて、学生の基本的な看護過程の思考をたどりながら対象者の生活上のニーズを充足するために必要な看護の実践を支援する。 ※福岡県及び北九州市の COVID-19 感染拡大状況により、実習受入れ施設側がやむなく「実習受入れ中止または停止」とする場合があります。その場合は、臨地実習を学内実習として実施することがあります。</p>							
学生が達成すべき行動目標	<p>基礎看護学実習2は、以下1.～5.の[実習目標]のもと、各個別の行動目標(詳しくは2023年度看護学実習要項)を達成することを目標に、原則、実際の医療機関において病棟での実習を行います。</p> <p>[実習目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護の対象を生活者としてとらえ、その概要を述べることができる。 2. 患者－看護者間の援助的人間関係を築くことができる。 3. 患者の生活上のニーズを判断し、日常生活の援助を実施することができる。 4. 看護者に求められる態度・姿勢とは何かについて考え行動することができる。 5. 自己の看護観を育むことができる。 							
達成度評価								
評価と評価割合／ 評価方法	試験	小テスト	レポート	発表(口頭、プレゼンテーション)	レポート外の提出物	その他	合計	備考
総合評価割合	0	0	30	20	0	50	100	
知識・理解 (DP1-1)								
知識・理解 (DP1-2)			15				15	
知識・理解 (DP1-3)								
知識・理解 (DP1-4)								
思考・判断 (DP2-1)			15				15	
思考・判断 (DP2-2)								
関心・意欲 (DP3-1)								
関心・意欲 (DP3-2)								
態度(DP4-1)				15			15	
態度(DP4-2)				5			5	
態度 (DP4-3)								
技能・表現 (DP5-1)						20	20	
技能・表現 (DP5-2)						30	30	
技能・表現 (DP5-3)								
具体的な達成の目安								
理想的レベル				標準的なレベル				

<p>1. 看護の対象を生活者として理解することができる。</p> <p>1)M. ゴードンの 11 の機能的健康パターンのアセスメントツールを用いて情報を分類・整理できる。</p> <p>2)分類・整理した情報を各パターンのアセスメント視点に照らしてアセスメント(解釈・判断)し、各パターンにおける機能不全状態を説明できる。</p> <p>3)対象の全体像の概要を整理し、看護上の問題を明らかにできる。</p> <p>2. 患者-看護者間の援助的人間関係を築くことができる。</p> <p>1)患者に関心を持って関わるができる。</p> <p>2)患者を尊重した態度・言葉で接することができる。</p> <p>3)患者とのコミュニケーションを通して、相手の反応の言語的・非言語的意味を考え、気づきを述べるができる。</p> <p>4)受けとめた患者の思いを確認できる。</p> <p>5)援助者としてのあり方を考え行動できる。</p> <p>6)患者との間に築いた関係を客観的に振り返り、自己の課題を明らかにすることができる。</p> <p>3. 患者の生活上のニーズを判断し、日常生活の援助を実施することができる。</p> <p>1)患者の日常生活を通して、生活上のニーズの充足度を判断し、他者にわかるように説明できる。</p> <p>2)患者の生活上のニーズを満たすための必要な看護技術を導き出すことができる。</p> <p>3)必要と判断した看護技術について、安全・安楽・自立の視点から、患者の個別性を考慮した方法と根拠を述べるができる。</p> <p>4)看護技術を実施できる。</p> <p>(1)実施前・実施中・実施後に必要な観察ができる。</p> <p>(2)準備と片づけができる。</p> <p>(3)安全・安楽に基づいて看護技術が実施できる。</p> <p>(4)患者の個別性を考慮した方法で実施できる。</p> <p>(5)実施した看護技術の自己評価ができる。</p> <p>4. 看護者に求められる態度・姿勢とは何かについて考え行動することができる。</p> <p>1)報告・連絡・相談が、適時・適切にできる。</p> <p>2)他者に自分の考えをわかりやすく簡潔に表現できる。</p> <p>3)患者のプライバシーへの配慮ができる。</p> <p>4)実習で知り得た患者の個人情報を守ることができる。</p> <p>5)自分自身の健康管理ができる。</p> <p>6)院内感染に留意し、適切に感染防止策を実行することができる。</p> <p>7)実習での体験を通して、ケアとは何かについて、自己の考えを述べるができる。</p> <p>8)人間としての尊厳及び権利を尊重する行動とは何かについて、自己の考えを述べるができる。</p> <p>5. 自己の看護観を育むことができる。</p> <p>1)看護についての考えを自分の言葉で述べるができる。</p>	<p>1. 看護の対象を生活者として理解することができる。</p> <p>1)指導者または教員助言のもと、M. ゴードンの 11 の機能的健康パターンのアセスメントツールを用いて情報を分類・整理できる。</p> <p>2)指導者または教員助言のもと、分類・整理した情報を各パターンのアセスメント視点に照らしてアセスメント(解釈・判断)し、各パターンにおける機能不全状態を説明できる。</p> <p>3)指導者または教員助言のもと、対象の全体像の概要を整理し、看護上の問題を明らかにできる。</p> <p>2. 患者-看護者間の援助的人間関係を築くことができる。</p> <p>1)患者に関心を持って関わるができる。</p> <p>2)患者を尊重した態度・言葉で接することができる。</p> <p>3)患者とのコミュニケーションを通して、相手の反応の言語的・非言語的意味を考え、指導者または教員助言のもと、その思いに気づくことができる。</p> <p>4)指導者または教員助言のもと、患者との間に築いた関係を客観的に振り返ることができる。</p> <p>5)他者と良好な関係性を築くうえでの自己の課題について、気づきを述べるができる。</p> <p>3. 患者の生活上のニーズを判断し、日常生活の援助を実施することができる。</p> <p>1)指導者または教員助言のもと、日常生活の観察を通して生活上のニーズを見出すことができる。</p> <p>2)指導者または教員助言のもと、患者の生活上のニーズを満たすための必要な看護技術を導き出すことができる。</p> <p>3)指導者または教員助言のもと、必要と判断した看護技術について、安全・安楽・自立の視点から、患者の個別性を考慮した方法と根拠を述べるができる。</p> <p>4)指導者または教員助言のもと、看護技術を実施できる。</p> <p>(1)実施前・実施中・実施後に必要な患者の観察ができる。</p> <p>(2)準備と片づけができる。</p> <p>(3)安全・安楽に基づいて看護技術が実施できる。</p> <p>(4)実施した看護技術の自己評価ができる。</p> <p>4. 看護者に求められる態度・姿勢とは何かについて考え行動することができる。</p> <p>1)他者に促されることなく、必要な報告・連絡・相談ができる。</p> <p>2)他者に自分の考えをわかりやすく簡潔に表現できる。</p> <p>3)他者に促されることなく、患者のプライバシーへの配慮ができる。</p> <p>4)実習で知り得た患者の個人情報を守ることができる。</p> <p>5)自分自身の健康管理ができる。</p> <p>6)院内感染に留意し、適切に感染防止策を実行することができる。</p> <p>7)実習での体験や指導者または教員の助言を基に、ケアとは何かについて、意見を述べるができる。</p> <p>8)指導者または教員助言のもと、人間としての尊厳や倫理的行動とは何かについて、意見を述べるができる。</p> <p>5. 指導者または教員助言を得ながら、自己の看護観を育むことができる。</p>			
授業計画				
進行	テーマ・講義内容	授業の運営方法	学習課題(予習・復習)	予習・復習時間(分)

1	<p>基礎看護学実習2(2単位)の詳細については「2023年度 看護学実習要項」を参照。</p> <p>1.実習単位・時間数 : 2単位 90時間</p> <p>2.実習期間:臨地実習は、下記の日程で、4病院に分かれて実施・展開する。 2021年9月6日(月)~9月17日(金) ※土・日を除く10日間</p> <p>3.実習時間:臨地実習時間 8:30~15:30, 学内実習時間 9:00~16:00</p> <p>4.実習概要:1年後期(2月)の「基礎看護学実習1(学内実習)」修了後、約半年を経た2年前期(9月)の実習です。コミュニケーション技術をはじめ、2年前期までの既習の知識・技術を用いて看護過程の思考をたどりながら対象者の生活上のニーズを充足するために必要な日常生活の援助を行います</p> <p>その際、必要と判断した看護技術は、安全・安楽・自立の視点から、また、対象者の個別性を考慮した根拠に基づく適切な方法として提供できるように配慮します。さらに、臨地で出会う人々(対象者とその家族、医療関係者など)との日々の関わりを通して、看護者としての自らの言動を客観的に振り返る機会とするとともに、看護者に求められる姿勢・態度とは何かを考え、看護者としての自己の成長・発展・行動変容につなげる機会とします。</p>	<p>■事前の課題学習 (自主学習 / 演習)</p> <p>■臨地実習</p> <p>■学内実習</p> <p>■学生カンファレンス</p> <p>■リフレクション</p>		
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				
11				
12				

13				
14				
15				
16				
17				
18				
19				
20				
21				
22				
23				
24				
25				
26				
27				
28				
29				
30				
理解に必要な予備知識や技能	1年次に学修した専門基礎科目(看護形態機能学Ⅰ、看護形態機能学Ⅱ、感染と免疫、他)及び看護専門科目(主に基礎看護学分野の教科目)の知識・技術の活用と実践が求められる。			
テキスト	基礎看護学実習2の詳細については、第1回 学内オリエンテーション(全体:2023年9月1日)の折に、「看護学実習要項 2023年度」に基づいて説明を行う。			
参考図書・教材／データベース・雑誌等の紹介	事前の学内学習および臨地実習中に、必要に応じて、適宜、紹介・助言する。			
授業以外の学習方法・受講生へのメッセージ	<p>基礎看護学実習2への事前の学習準備として、まずは2年前期履修の「看護過程論」で学んだ「看護過程の展開」に必要な知識と「看護過程の展開方法」について、しっかりと復習しておきましょう。</p> <p>基礎看護学実習2では、看護の対象者を身体的、心理・社会的側面から総合的に捉える看護師としての見方・考え方(=問題解決的思考)を基盤として、対象者の生活上のニーズを導き出し、その充足に向けて、1、2年次に学修した看護の基本技術(コミュニケーション技術、フィジカルアセスメント技術、生活援助技術、診療関連技術など)を用いて、対象者に必要な看護を実践する大切な学習の機会です。</p> <p>臨地での実習は、4～6名の実習生グループによる学習活動を軸に展開します。</p>			

	<p>実習生の皆さんには、原則、学生2名につき受持ち患者1名を担当していただき、2人で協力・連携して受持ち患者の生活上のニーズ充足のためのケアは何かを考え、必要な看護技術を選択・実践することを目指します。</p> <p>看護の対象者が必要としている援助を、根拠に基づく看護として実践する基礎的能力を習得する機会として、皆さんの積極的・主体的な学習への取り組みを期待しています。</p>
<p>達成度評価に関するコメント/課題に対するフィードバックの方法</p>	<p>基礎看護学実習2の達成度評価は、実習評価表を用いた評価を基に学生の自己評価、臨地実習指導者の意見、教員評価を踏まえて総合的に評価します。実習評価表は、実習目標に沿って「対象の理解」、「援助的人間関係の構築」、「生活上のニーズに即した日常生活への援助」、「専門職としての態度・姿勢」、「看護観の育成」に、実習態度や学習姿勢、グループでの役割遂行状況を「学習参加度/貢献度」として加えた6つの視点で評価します。</p> <p>主に評価する方法としては、対象者との関わりや看護実践で示される「その他(50%)」、実習記録で示される「レポート(30%)」、計画発表やカンファレンスで示される「発表(20%)」を総合的に評価します。</p> <p>実習評価表に示す6つの視点と看護学科ディプロマポリシーとの関連は以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆「対象の理解」は、DP1-2)[知識・理解]、DP-2-1)[思考・判断]の視点で評価します(30%)。 ◆「援助的人間関係の構築」は、DP5-1)[技能・表現]の視点で評価します(20%)。 ◆「生活上のニーズに即した日常生活への援助」は、DP-2)[技能・表現]の視点で評価します(30%)。 ◆「専門職としての態度・姿勢」は、DP4-1)[態度]の視点で評価します(5%)。 ◆「看護観の育成」は、DP4-1)[態度]の視点で評価します(5%)。 ◆「学習参加度/貢献度」は、DP4-1)[態度]、DP4-2)[態度]の視点で評価します(10%)。 <p>《課題に対するフィードバック》</p> <p>実習期間中に適宜、面接や記録を通してフィードバックを行います。</p>

